

『貨車解体』で17名に事前通知 動労^{本部}組合員を入れるための配転強行(津田沼)

日刊 動労千葉

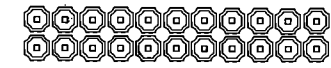
87. 7. 10

No. 2598

国鉄千葉動力車労働組

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六）（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

当局「動労革マル」一体となった 動労千葉破壊の策謀を粉碎せよ



七月七日、千葉運行部は「廃車車両解体業務」について提案し、幕張電車区、習志野電車区の十七名に事前通知を強行した。「貨車解体業務」は作業計画、内容が不明確であるばかりか、施設の不備、重労働など劣悪な労働条件を強制し、しかも差別的な人選を強行している。動労千葉の団交要求に対し、「団交事案でない」などと拒否する当局を徹底的に追及し、第三者機関の活用も含め、あらゆる手段で闘いぬくものである。



炎天下、極寒での作業強要

今回の「車両解体業務」の事前通知は、今まで以上に労働者を愚弄したものである。期間が七月中旬から来年三月までとなっており、この期間中、屋外で炎天下や極寒にさらしながら作業をやらせようというのだ。さらに、解体のためにガス溶断機を使うことから資格の問題が生ずる。ほとんどが資格をもっていないことから、これをほんの数日で取得させ実作業をさせようとしているのだ。全く危険極まりないものである。

これに対し動労千葉は、申第三十号（七月八日付）をもって当局に申し入れを行い、この理不尽な攻撃を追求しているところである。

- 事前通知の内容は次のとおりである。
- 幕張電車区 十二人（動労千葉三人）
（国労 九人）
- 習志野電車区 五人（動労千葉二人）
（国労 二人 鉄産労 一人）

動労「本部」組合員 送り込みのための配転

また、幕張、習志野両電車区においても重要な問題が発生している。幕張電車区では、この「解体業務」を希望した者がいるにもかかわらず、これを無視し、当局の一方的な判断で人選を行っている。

通勤方法、賃金の支払い、資格の問題等も一切明らかにしていないのだ。

習志野電車区ではさらに悪質である。車両係四人（動労千葉二人、国労二人）を配転させることで一人の欠員が生じる。そこで、四月一日前に佐倉機関区から幕張電車区へ転勤し、現在ハンドル訓練を行っている動労「本部」組合員を、訓練終了と同時に習志野電車区へ転勤させて欠員補充を行おうというのだ。さらにもう一人新小岩機関区から習志野電車区に転勤し、ハンドル訓練を行っている動労「本部」組合員を同じくそこにあてようとしているのだ。

当局と動労革マル一体となった動労千葉、国労破壊のための卑劣な攻撃である。当局もこのことを追及されると何も答えられずにただ黙っているだけである。自らが行っている不正義を完全に認めているのだ。絶対に許すことはできない。

臨時委員会に結集しよう

当局・動労革マル一体の攻撃に対してわれわれは実力反撃でこれを粉碎しなければならぬ。職場で鉄道労連の危機にのたうつ動労革マル分子を徹底的に弾劾し追放・一掃せよ。

七月十八日、臨時委員会に総結集し、大成功をかちとろう。